

日本におけるデジタルデバイドの解消に向けて—地方におけるIT講習会の検証—

Trials for Closing the Japanese Digital Divide - Focusing on IT Training Courses in Local Districts -
N-16

川端淑子*

Toshiko Kawabata*

山陽学園短期大学

Sanyo Gakuen Junior College

1. 序

近年、ITの経済的発展への波及効果は大きく、そのための教育計画および投資が重要である。IT先進諸国、特に米国は、「年齢、収入、人種、性、地域、身体的障害」などから生じるデジタルデバイドの解消のために、すべての国民がインターネットにアクセスできるよう国策として計画的にIT教育に取り組んでいる。日本でも、平成12年「日本新生のための新発展政策」の一環として、情報通信技術講習推進特例交付金約545億円の補正予算を組んだ。これは、「IT普及国民運動の展開を通じたIT利用技能の向上」を目的とした予算であり、約550万人程度の者が受講できるよう政府が行った特例的な支援である。総務省は、住民がIT講習を受ける機会を飛躍的に拡大させるため、地方公共団体が自主的に行えるよう都道府県に対して交付金を交付した。平成13年度から地方公共団体がIT講習会を行い、14年度も継続して開催している地域も多い。講習内容は、「インターネットが使えるようになるために必要な基礎技能の習得」である。岡山県北の山間部に位置し、都市部から遠く離れた町村を中心に隣接する県の町村のIT講習会について調査を行い、その教育効果を検証し、地域的デジタルデバイドの解消を目的としたIT教育方法改善を考察する。

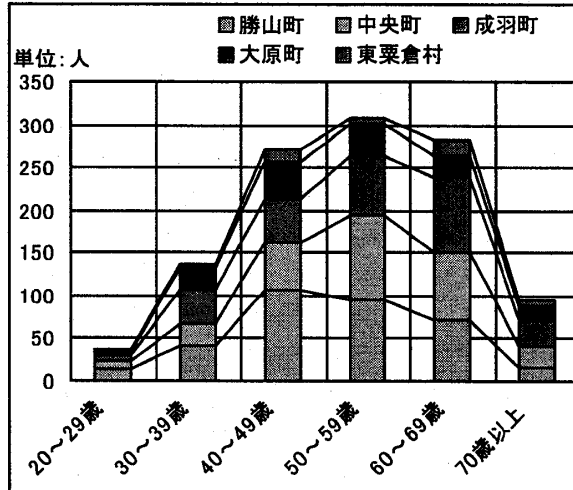
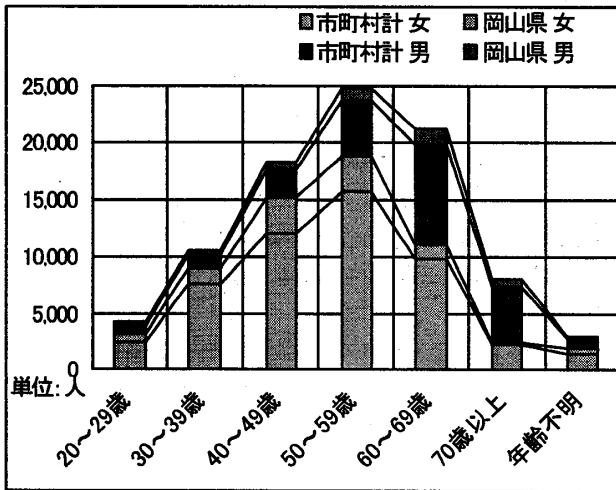
2. 地方公共団体によるIT講習会

IT講習時間は1受講者当たり複数日に分けて12時間程度を基本とし、講習内容は、(1)パソコンの基本操作、(2)ワープロ文書の作成、(3)インターネットの利用と電子メールの送受信であり、県の作成した講習用テキストは初心者向きでわかりやすい。しかしながら、著者の経験から、毎日利用する環境でない場合、初心者の短大の学生で半期1コマ(約20時間)でもマスターするには少し無理がある。

岡山県と市町村が13年度に行ったIT講習会の参加数と年齢別、男女別受講者構成は図表1のとおりである。岡山県の受講者は約9万人で男性は31.5%、女性は68.5%であり、女性が2倍以上である。図表2、3は調査のため訪問した勝山町、中央町、成羽町、大原町、東栗倉村の参加者を抜粋したものである。岡山県と市町村計別、5町村合計は50~59歳の受講者が最も多く、続いて60~69歳である。男性は60歳~69歳が最も多く退職年齢である。また、東栗倉村を除いて、人口比より女性の参加率が高いことがわかる。夜、休日コースがあるにもかかわらず男性が少ない。ワープロも含めてコンピュータの学校教育がなかったあるいは仕事で使わなかった「40歳から69歳の中高年の女性がインターネットというコミュニケーション手段を利用したい」という意欲がうかがわれる。

図表1 岡山県年齢別受講者数

図表2 岡山県内5町村年齢別受講者



成羽町が行った13年度講習会アンケート(222名回答)を抜粋すると、(1)講習会の内容は難しかった52.7%に対して、簡単だった3.6%、(2)講習会の内容には満足が70.7%、(3)今後もパソコン講習会に参加したい92.3%である。感想には「楽しかったのも、難しかったのもインターネット利用」、「わかるまで講習を受けたい」、や「入力に手間がかかった」、要望には「高齢者に配慮してもっとゆっくり」、「年齢別のクラスを」などあり、中央町でも同じような感想があった。

*e-mail: toshikok@sguc.ac.jp (社)情報処理学会 IPSJ

図表3 岡山県内5 町村町別男女参加者比較

	成羽町		勝山町		大原町		中央町		東栗倉村	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
講習参加者比率	34.7%	65.3%	30.0%	70.0%	32.0%	68.0%	33.9%	66.1%	48.2%	51.8%
人口比率	47.5%	52.5%	47.6%	52.4%	48.7%	51.3%	48.2%	51.8%	47.8%	52.2%

14年度、勝山町が行った講習会の参加者は初めての受講者が大部分であり、同じような感想になっているが、主催者（教育委員会）と昨年から引き続いて担当している講師にもアンケート調査を行った。（8名回答）主催者が回答した講習会の概要は「(1)講師は民間業者に委託、(2)講師に事前講習は専門技術者なのでしない、(3)継続して講習を行う理由は受講者・未受講者からの要望が強かった」である。また、直接のインタビューでは、「初心者はいっとき、経験者は早くエクセルをと言われ、様々なニーズに対応できない。前回の講習会で困ったことなどや反省点については、「(1)家庭のパソコン保有率やネットワーク接続率が低いので復習ができない、(2)初心者専門用語が理解できない、(3)マウスの操作ができない」があり、今回もそれらは解決できていないという回答であった。講師は委託された会社員で、全員教えるのは初めての経験である。「教える内容について講習回数・時間は充分でしたか」の質問に対して全員が「いいえ」と回答し、その理由として全員が「初心者と体験者を同時に教える」、「講習内容に比較し回数が少ない」である。

3. 結

岡山県の岡山情報ハイウェイは県内を8の字型にむすんだ高速大容量光ファイバー網であり、全国を縦横断する国のギガビットネットワークとも接続され一般にも開放されている。こうしたインフラ整備のもと、県民のデジタルデバイドを解消して地域の発展のためにインターネットを利用できるよう、国に先駆けて12年度第4四半期からIT講習会を開催している。都市部から遠く離れた山間部でもCATVを整備しているので、家庭での機器整備、インターネット接続と低額の利用料金、そして何より無料のリテラシー教育の徹底が求められる。興味をそそるコンテンツも大切である。その後、地域的デジタルデバイドはインターネットの活用により解消できる。

平成13年度の総務省補助金545億円としてまいた種の芽を育てて花を咲かせるにはどのようにしたらいいのか考察すると、基礎教育後は「習より慣れろ」で、毎日少しずつ利用するという極めて単純な結論に行き着く。IT講習会は高齢者と女性の参加者が多かったが、かれらは一般的に若者より根気強い。県の生涯学習センターは継続的に講習会を行っており、担当者が「高齢者の問題点は今週習ったことを次週にはすっかり忘れていてることである」と述べている。中央町の講習会でアシスタントをつとめた66歳の女性は、新聞の投書欄に「遠くに住む孫とメール交換を楽しんでいる」と投稿していた。早速連絡をしたらメールが届き、「半年ほど町内のパソコン塾に通い自宅で格闘、現在では私流に楽しんで利用している。ここまで使いこなせるようになったのはやはりやる気と慣れにつきる」とのことである。このように高齢者は根気はあるとしても、一般的に著者の経験からも「年齢別」、「習熟度別」の講習が必要である。ITはハードとソフトだけでなく、政府が責任を持ってヒューマンウェアを複数年にわたる計画を立てて教育すべき問題であると考えられる。勝山町の14年度の受講者で最高齢の65歳女性は、本で独習しすでにインターネットを家庭で利用しているが、講習内容について次のようにコメントしている。「受講者がローマ字をマスターして、パソコン利用体験者なら理解できるが、初めての特に高齢の人には講習時間が少なすぎる」。1回限りの特例措置でなく、生涯学習のための継続的な予算措置が地域的デジタルデバイドの解消には必須であることは言うまでもない。また、アメリカの「K-12教員養成プログラム」のように教員の教育を計画的に行い、ある程度講師の均質化をはかるべきである。

男女の人口比と講習参加者比がほぼ同じである東栗倉村は、小学校の20台のパソコンを講習に利用し、小学校の担当教師が講師になった。ここでは、小学校生がローマ字を勉強するとほぼ同じ頃にキーボードトレーニングを始める。この村は3世帯同居という家族が多いので、子供が覚え家庭で祖父母の指導をし、インターネットを利用する風景を想像すると微笑ましいが、残念ながら殆どの家庭にはパソコンが無い。教室はロックされて開放されていない。ノートパソコンを新規に購入した成羽町も管理者がいないため講習会以外は本意ながらロックされて利用できない。インターネットを利用できる程度に上達した参加者に思い切って安価で払い下げることはできないだろうか。

著者は、初心者の学生にはタイピングレッスンから始め、キーボードトレーニングを徹底しているが、生涯教育特に高齢者の場合、入力は時間をかけてゆっくりすればいいと考えていた。しかし、中央町などのアンケートによるとあれもしたいこれもしたいと要求が多い上、インターネットでは入力に時間がかかりすぎて困る人が多いので、年齢にあったペースでのタイピングのトレーニングの必要性を認識した。中央町のIT講習会に参加している障害者の人から「子供の時はローマ字がわからなかったがこうしてキーボード入力しているとローマ字を簡単に覚えられた」という内容のメールを受信した。小学校でローマ字やアルファベットを勉強すると平行してキーボードトレーニングをするべきというのが著者の持論であるが、参加者から思わぬ証明が得られた。理解力の差はあれ老若男女教授法は同じである。

4. 参考文献

- 1)川端淑子, 効果的なコンピュータリテラシー教育の比較研究, 大学教育出版, 2001
- 2)<http://www.pref.okayama.jp/kikaku/joho/itopia/program/program.htm>
- 3)川端淑子他, コンピュータリテラシーの早教育の必要性についての考察, 全日本工学研究協議会全国大会 2001 発表論文集, 2001